

# くまもと黒毛和牛プレミアム「和牛」の現状と評価

中村学園大学 甲斐 諭

## 要 約

熊本県において、昭和 48 年に褐毛和種は 11,892 頭飼養されていたが、平成 23 年には 5,409 頭まで減少し、逆に、黒毛和種は昭和 48 年の 1,335 頭から平成 23 年には 37,042 頭に増加している。熊本県は黒毛和種の供給基地になっていると言えよう。

黒毛和種のブランド化を図るべく、平成 19 年に、くまもと黒毛和牛プレミアム「和牛」の発表会が大阪と熊本で行われ、和牛が誕生した。和牛の定義は次の通りである。①熊本県経済農業協同組合連合会を經由して出荷されたもの。②黒毛和種であること。③出生からと畜前日までに 28 カ月を超え、かつ熊本県内における飼養期間が最長であり、原産地が熊本県であるもの。④日本食肉格付協会の定める肉質等級が 4 以上で、BMS ナンバーが 6 番以上であるもの、などである。

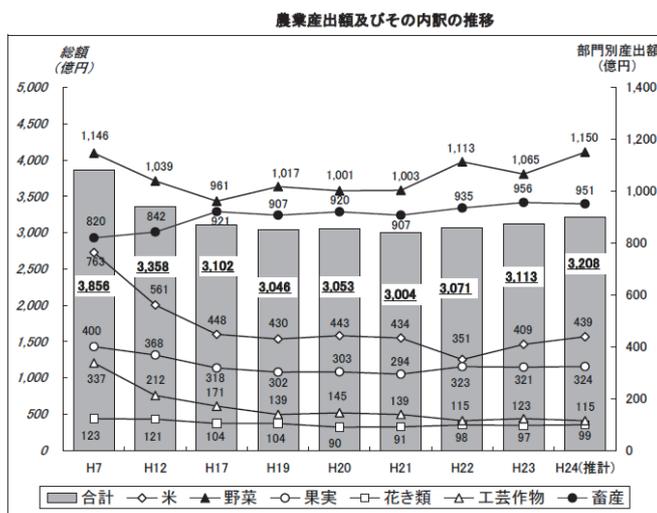
平成 24 年度に、熊本県経済連を經由して熊本畜産流通センターおよび県外でと畜・販売された黒毛和種のうち格付等級が 4 以上、BMS ナンバーが 6 以上のものである和牛が 2,958 頭、一般牛が 11,074 頭であった（相対取引、市場セリ、共励会等すべての販売を含む）。従って、和牛の発生率は 21.1%であった。

## 1. 熊本県の農業産出額と畜産の構成比

平成24年の熊本県の農業産出額は、図 1 のように前年を95億円(3%)上回る3,208億円と推計されている。これは、野菜や米を中心に熊本県産品に対する需要が高く、ほとんどの品目で価格が上昇したことに起因している。畜産は29.6%の951億円と推計されている。

図 1 熊本県の農業産出額と内訳

畜産について検討すると、肉用牛では、子牛部門は価格が上昇したため産出額が増加したものの、肉牛部門は生産量が減少し産出額が減少したため、肉用牛全体としての産出額は減少となった。生乳では、乳価は前年並みであったが、生産量が増加したため、産出額はわずかに増加した。豚では、生産量が増加したため産出額が増加し



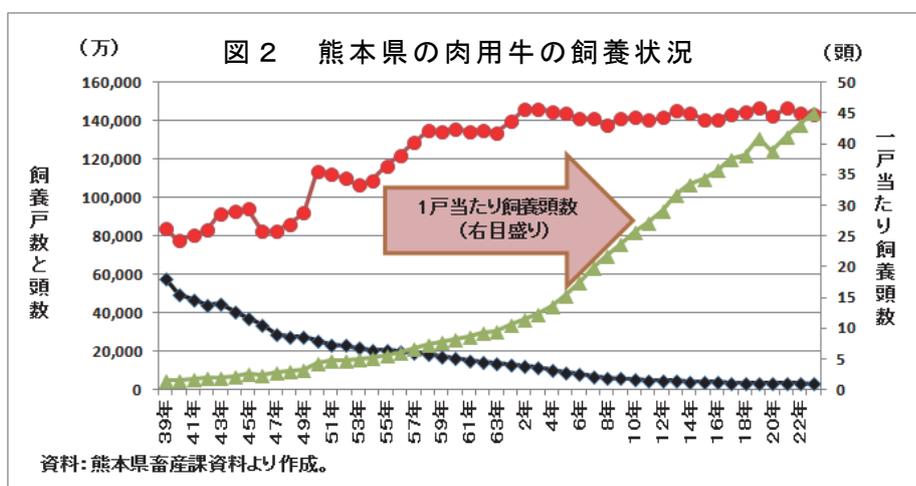
資料) 農林水産省「生産農業所得統計」

た。鶏卵、ブロイラーの生産量は前年並みであったが、価格が大幅に低下し産出額も減少となった。この結果、畜産の産出額は、前年の956億円から5億円減少するものと推計されている。

## 2. 熊本県の肉用牛飼養の動向

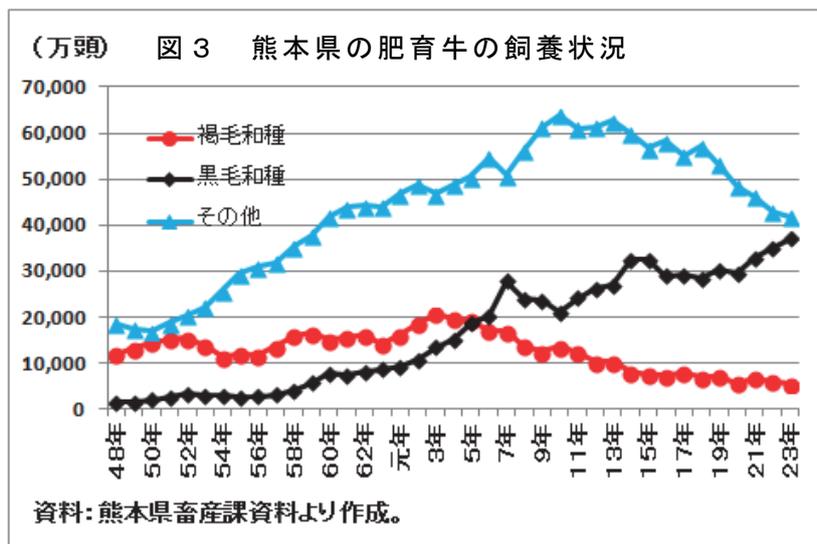
熊本県における肉用牛の飼養戸数は、高齢化の進展等により年々減少しており、平成24年はやや減少して3,270戸（前年比5.2%減）となった。平成24年の飼養頭数は、前年からわずかに減少し142,400頭となった。うち子取り用雌牛頭数は、前年と同じ36,700頭であった。また、乳用種肥育牛頭数は前年からわずかに減少し、肉用牛飼養頭数に占める割合の漸減傾向が継続している。なお、肥育牛のうち交雑種の頭数は、平成23年12月末時点の熊本県畜産統計によると、28,687頭（前年比5.8%減）と前年よりやや減少した。

図2から熊本県の肉用牛飼養の長期動向を検討すると、昭和39年の飼養戸数57,954戸、飼養頭数83,887頭から、戸数は毎年確実に減少し、また頭数は増減を繰り返しながら徐々に増加して、平成23年には飼養戸数は3,184戸に減少し、飼養頭数は143,488頭に増加している。その結果、1戸当たり飼養頭数は同期間に1.5頭から45.1頭に増加している。



年の 18,645 頭から平成 10 年には 63,855 頭まで増加したが、その後は減少し、平成 23 年には 41,763 頭になっている。

熊本県を代表する肥後のあか牛（褐毛和種）はいまや急減し、熊本県は黒毛和種の供給基地になっていると言えよう。



#### 4. 熊本県における和牛の誕生と定義

上述のように熊本県において急増している黒毛和種のブランド化を図るべく、2007年に、くまもと黒毛和牛プレミアム「和牛」の発表会が大阪と熊本で行われ、和牛が誕生した。和牛の定義は次の通りである。

- ①熊本県経済農業協同組合連合会を經由して出荷されたもの。
- ②黒毛和種であること。
- ③全国和牛登録協会の子牛登記証またはそれに準ずる証明書により、出生地の確認ができるもの。
- ④出生からと畜前日までに28カ月を超え、かつ熊本県内における飼養期間が最長であり、原産地が熊本県であるもの。
- ⑤日本食肉格付協会の定める肉質等級が4以上で、BMSナンバーが6番以上であるもの。
- ⑥厳選された安心・安全な飼料で成長したもの。具体的には、肥育期間中に、熊本県経済農業協同組合連合会の供給する配合飼料及び単味飼料をおおむね8割以上を与えられ、かつ、配合飼料の3割以上が特選シリーズであり、生産履歴に記載し、給餌履歴が証明できるもの。

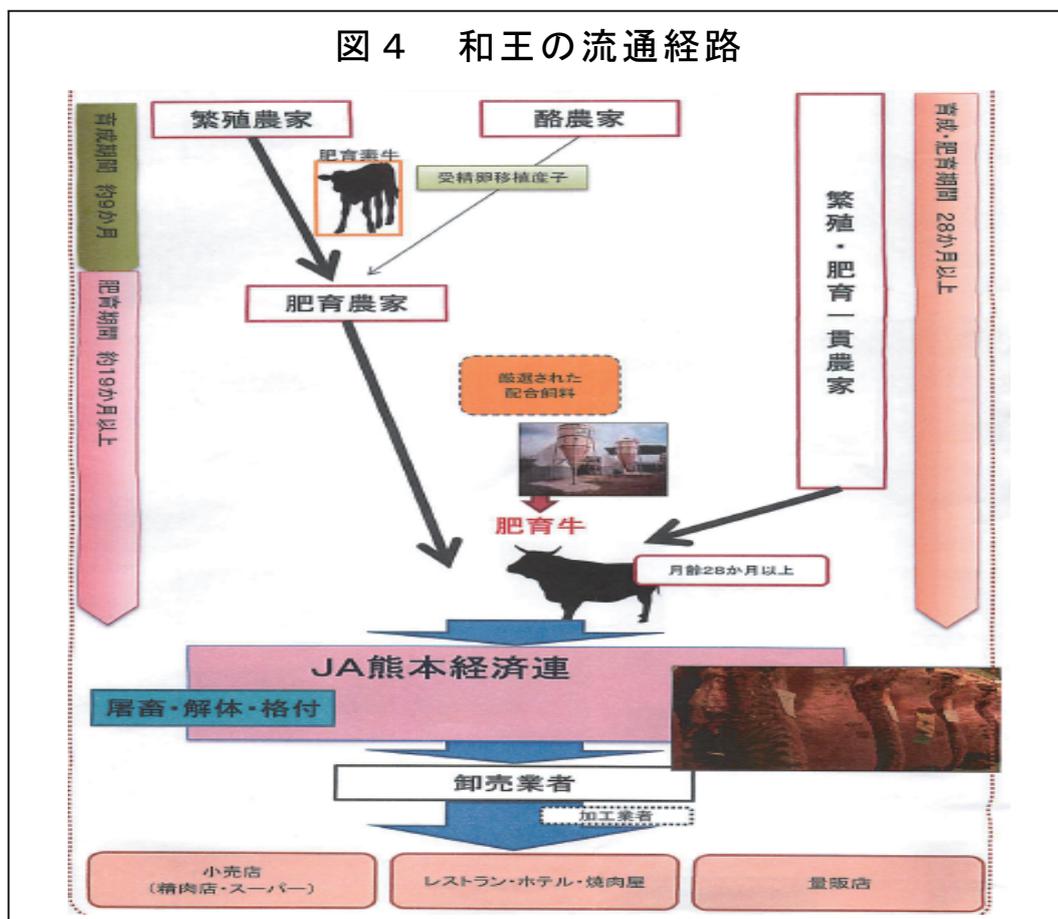
ところで、全国の和牛のブランドの定義はまちまちである。仙台牛は肉質等級が5（BMSナンバーが8以上）に限定しており、佐賀牛は肉質等級が4以上でBMSナンバーが7以上に、また宮崎牛と長崎和牛は肉質等級が4以上（BMSナンバーに

については言及がないので、実質的にはBMSナンバーが5以上)に限定している。従って、和牛の定義によれば、肉質等級が4以上でBMSナンバーが6以上であるので、九州に限定すれば、和牛の定義は佐賀牛と宮崎牛・長崎和牛との中間に位置すると言えよう。ちなみに、「The・おおいた豊後牛」は肉質等級が3以上であり、鹿児島黒牛は肉質等級による基準はない。

## 5. 和牛の流通経路

和牛の流通経路を図4に示す。熊本県内外の繁殖和牛農家あるいは酪農家で受精卵移植により生産された和牛の肥育素牛が約9か月、育成され、熊本県内外の子牛市場に出荷される。その肥育素牛を熊本県内の肥育農家が購入して、熊本県経済農業協同組合連合会が供給する配合飼料及び単味飼料で、約19か月以上肥育される。

生後28か月以上になった肥育牛が熊本県経済農業協同組合連合会を經由して、熊本畜産流通センター(同県菊池市七城町)、あるいは県外のと畜場でと畜解体され、卸売業者を經由して、加工業者、小売店、外食産業、量販店などに販売される。





## 6. 和牛の販売・生産戦略

### (1) 3者の連携による販売促進

和牛は、①熊本県経済連食肉卸売流通協議会（構成員：熊本県経済連と取引のある県内卸売業者10社）、②JAくまもと肉牛銘柄推進協議会（構成員：県下の地域農業、生産部会、経済連）、③和牛認知度向上プロジェクト（構成員：経済連畜産部、総合企画部、マーケティング戦略課）が一体となって販売促進活動に取り組んでいる。

### (2) エリア戦略

和牛は、熊本市場、関西市場、海外市場の3市場を重点市場として設定し、そこに経営資源を集中的に投入して、効果的な販売促進活動を実施している。

①熊本市場では、熊本畜産流通センター主催のせり市場を月2回開催し、県内外の食肉卸売業者・小売業者へ販売し、市場価格を高めている。

②関西市場では、大阪食肉市場（南港）、神戸市食肉市場、京都市食肉市場の中央食肉市場に加えて、南大阪食肉市場（松原）の地方卸売市場と全農近畿（兵庫県西宮市）への定期的な出荷と重点的な販促活動により認知度向上と単価向上に努めている。

③熊本畜産流通センターを拠点として、タイとマカオの輸出認定を既に受けており（対米輸出の認定を申請中）、国際的な認知度向上を図っている。

### (3) 生産体制の強化

生産体制の強化のために、配合飼料の安定供給と農家経営の安定が図られている。

①配合飼料物流体制整備の構築のため、ジェイエイ北九州くみあい飼料と連携した配合飼料の効率的運用が強化されている。また配合飼料バラ直送率の向上によりコンテナ輸送等への物流体制が図られている。そのためバラ直送率を平成25年度の55%から26年度には58%、27年度には60%に高める計画である。

②肉質向上のため、地域農協と一体となった農家巡回の強化、肉質向上に向けた血液検査の取り組み、家畜生体肉質測定装置の活用に取り組んでいる。

以上の生産体制の強化により、肉質の良い枝肉の安定供給と上物率の向上を目指している。

## 7. 和牛の販売実績

### (1) 和牛の発生率

平成24年度に、熊本県経済連を經由して熊本畜産流通センターおよび県外でと畜・販売された黒毛和種のうち格付等級が4以上、BMSナンバーが6以上のものである和牛が2,958頭、一般牛が11,074頭であった(相対取引、市場セリ、共励会等すべての販売を含む)。従って、和牛の発生率は21.1%であった。

上記のうちBMSナンバーが詳しく調査できた熊本畜産流通センター経由で販売された和牛と一般牛の頭数および価格は表1の通りである。和牛は1,313頭であり、一般牛は564頭であった。従って、熊本畜産流通センター経由での和牛の発生率は70%であった。熊本畜産流通センター経由の黒毛和種の発生率は全体の約3.3倍と好成績であることがわかる。

熊本畜産流通センター経由の和牛と一般牛の価格差は1kg当たり153円であった。あまり大きな差ではないが、A5のBMSナンバー11では668円の差があることが分かった。BMSナンバーが高いほど、一般牛との価格差は拡大することが判明した。

表1 熊本県畜産流通センターにおける和牛と一般牛の販売価格比較  
(単位:円/kg)

格付	BMSNo.	和牛販売		一般販売		単価差
		対象頭数	販売単価	対象頭数	販売単価	
A-5	11	19	2,901	3	2,233	668
	10	31	2,219	18	2,223	-4
	9	95	2,102	43	2,004	98
	8	151	1,919	53	1,888	31
A-4	8	47	1,775	17	1,682	93
	7	340	1,737	137	1,691	46
	6	554	1,699	261	1,630	69
B-4	8	1	1,665	2	1,200	465
	7	26	1,714	9	1,651	63
	6	49	1,602	21	1,599	3
合計		1,313	1,933	564	1,780	153

資料:熊本県経済連提供資料より作成。

## (2) 九州管内系統和牛枝肉共励会における和牛の成績

平成 25 年 9 月 2 日から 7 日にかけて JA 全農ミートフーズ九州支社において、九州管内系統和牛枝肉共励会（以下、枝肉共励会と言う）が開催された。九州 7 県と沖縄県からそれぞれ 17 頭計 136 頭の肥育牛が出品された。

熊本県経済連からも 17 頭が出品されたが、うち 1 頭は褐毛和種であり、また他の 1 頭は BMS ナンバーが 5 であったので、これらの 2 頭は和牛の定義から除外される。

表 2 に枝肉共励会に出品された各県経済連の成績を表示する。和牛の肉質等級は A 県、E 県と同じく 4.9 であり、枝肉単価は A 県の 3,364 円に次いで第 2 位の 3,313 円であった。

A 県には金賞を含む 4 頭が受賞しており、和牛は銅賞 2 席を含む 3 頭が受賞していた。その他 C 県 1 頭、D 県 1 頭、E 県 1 頭の 10 頭が何らかの賞を受賞していた。A 県の金賞を受賞した牛などの受賞牛は、枝肉共励会最終日に開催されたセリにおいて御祝儀相場的な価格が形成された可能性が高いので（ちなみに、A 県の金賞受賞牛の枝肉価格は 1kg 当たり 8,500 円であった）、10 頭の受賞牛を除外した BMS ナンバーと枝肉価格の関係を表示したのが表 3 であり、それを図示したのが図 5 である。同図表をみると和牛は BMS ナンバーが 9.6 で最高であり、また枝肉価格も 2,861 円で最高であることがわかる。

表 4 に 15 頭の和牛の成績を示し、図 6 に和牛の BMS ナンバーと枝肉価格との関係を図示する。BMS ナンバーが 12 になると受賞牛が含まれるので、枝肉価格が高騰することがわかる。

受賞牛の枝肉価格には御祝儀相場的な要素が多分に含まれるので、共励会で受賞した 10 頭の成績を除外したデータから BMS ナンバーと枝肉価格との関係を図示したのが図 7 である。

両者の回帰分析結果は次式の通りである。

$$Y = 1,208 + 156.736 X$$

(20.0)

$$R^2 = 0.764$$

ただし、Y = 枝肉価格（円/kg）

X = BMS

( ) の数値 = t 値

R<sup>2</sup> = 決定係数

である。

上式より、枝肉価格は BMS ナンバーにより有意に影響されており、枝肉価格の 76.4% は BMS ナンバーにより説明されることが判明した。

表2 第37回九州管内系統和牛枝肉共励会の成績（平成25年9月2日～7日 開催）

（単位：月、Kg、%、cm<sup>2</sup>、cm、円/kg）

県連	月令	生体重量	枝肉重量	歩留	級質	ロース面積	ハラ厚	皮下脂肪	歩留基準	BMS	等級	BCS	光沢	等級	締り	きめ	BFS	光質	枝単	肉価
和王	28.9	768.3	506.3	65.9	4.9	72.9	8.5	2.1	76.3	10.1	4.9	3.3	4.9	4.9	4.9	5.0	3.0	5.0	3.313	
A県	28.8	785.6	525.0	66.7	4.9	71.9	8.8	2.3	75.9	9.8	4.9	3.6	4.9	4.9	4.9	4.9	3.0	5.0	3.364	
B県	29.3	737.5	488.1	66.2	4.4	59.8	8.3	2.7	74.2	7.2	4.4	3.8	4.4	4.4	4.4	4.6	3.0	5.0	2.176	
C県	29.0	797.2	523.8	65.6	4.8	70.2	8.5	2.6	75.3	9.2	4.8	3.8	4.8	4.8	4.8	4.8	3.0	5.0	2.735	
D県	29.0	768.6	498.4	64.8	4.4	58.8	8.2	2.9	73.7	7.8	4.5	3.8	4.4	4.4	4.4	4.5	3.0	5.0	2.342	
E県	30.9	757.1	495.9	65.5	4.9	64.5	8.5	2.6	74.9	9.4	4.9	3.6	4.9	4.9	4.9	4.9	3.0	5.0	2.849	
F県	28.4	764.3	492.7	64.4	4.2	58.7	8.0	2.9	73.6	7.0	4.2	3.8	4.4	4.4	4.3	4.6	3.0	5.0	2.218	
G県	29.4	792.0	513.5	64.8	4.6	60.3	8.6	3.0	73.9	8.8	4.6	3.6	4.7	4.7	4.7	4.8	3.0	5.0	2.682	

注：和王はJA熊本経済連の和王の定義に合致する15頭の平均値であり、その他の県連は17頭の平均値である。

資料：JA全農ミートフーズ株式会社九州支社提供資料より作成。

表3 第37回九州管内系統和牛枝肉共励会において受賞した10頭を除く成績

（単位：円/kg）

県連	BMS	枝肉単価
和王	9.6	2,861
A県	9.5	2,737
B県	7.2	2,176
C県	9.1	2,655
D県	7.6	2,238
E県	9.3	2,777
F県	7.0	2,218
G県	8.8	2,682

資料：JA全農ミートフーズ株式会社九州支社提供資料より作成。

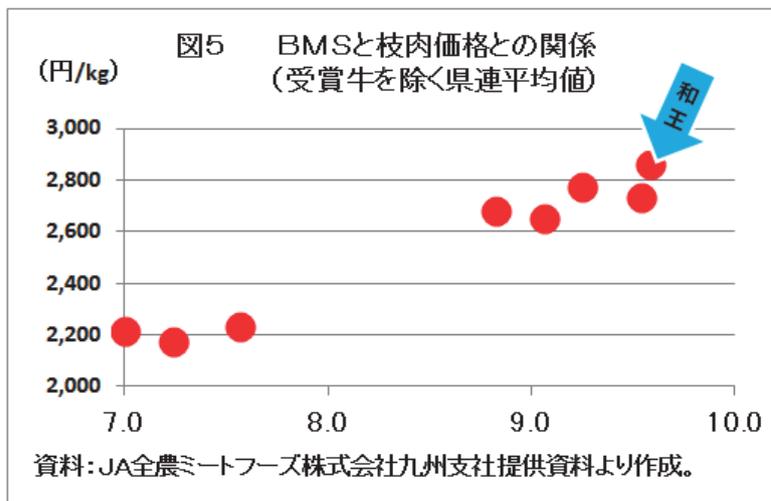


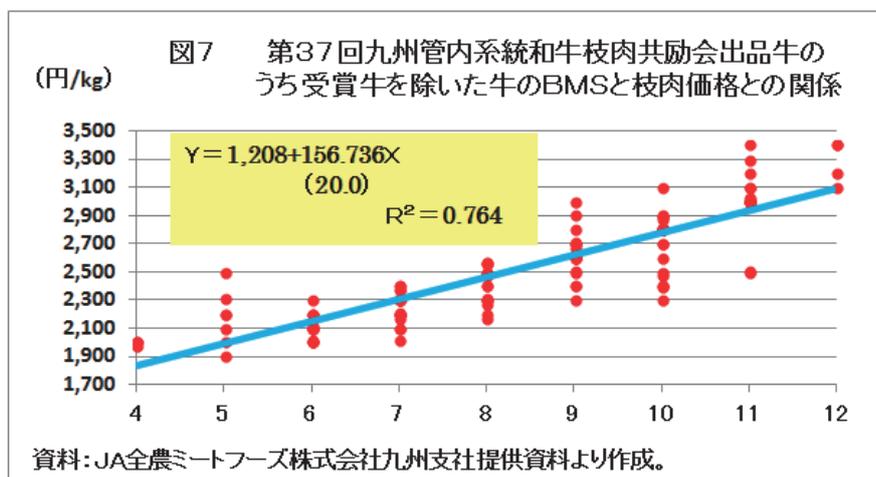
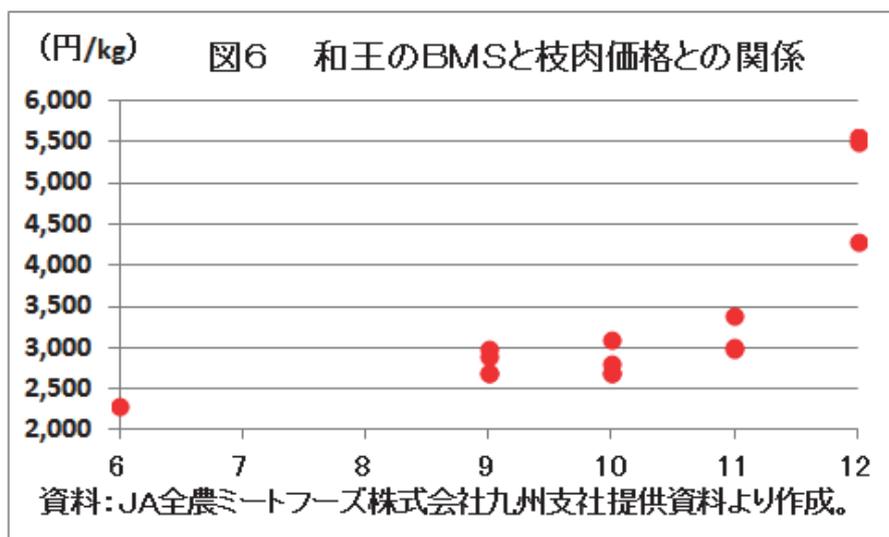
表 4 第 37 回九州管内系統和牛枝肉共励会における和牛の成績（平成 25 年 9 月 2 日～7 日 開催）

（単位：月、Kg、%、cm<sup>2</sup>、cm、円/kg）

個体	月令	生体重量	枝肉重量	歩留	等級	級質	ロース面積	ハラ厚	皮下脂肪	歩留基準	BMS	等級	BCS	光沢	等級	締め	BFS	光質	枝肉単価	
1	28	814.0	527.1	64.7	A	5	69.0	8.1	1.6	75.8	9	5	3	5	5	5	3	5	3,000	
2	28	698.0	467.0	66.9	A	5	78.0	8.7	2.1	77.6	12	5	3	5	5	5	3	5	5,500	
3	29	797.0	543.2	68.1	A	5	101.0	9.3	2.2	80.0	10	5	3	5	5	5	3	5	3,100	
4	28	760.0	512.6	67.4	A	5	79.0	8.4	1.6	77.4	10	5	4	5	5	5	3	5	2,810	
5	29	722.0	484.0	67.0	A	5	76.0	8.8	2.4	77.0	11	5	3	5	5	5	3	5	3,020	
6	29	801.0	527.1	65.8	A	5	67.0	8.2	2.5	74.8	9	5	4	5	5	5	3	5	2,700	
7	29	813.0	530.1	65.2	A	5	67.0	9.4	2.0	76.0	9	5	3	5	5	5	3	5	2,700	
8	31	750.0	507.7	67.6	A	5	92.0	8.4	2.2	78.6	12	5	3	5	5	5	3	5	5,560	
9	29	769.0	509.7	66.2	A	5	68.0	8.1	2.0	75.5	11	5	3	5	5	5	3	5	3,000	
10	30	815.0	542.2	66.5	A	5	93.0	8.9	1.8	79.0	12	5	4	5	5	5	3	5	4,300	
11	28	750.0	495.1	66.0	A	5	70.0	8.4	2.0	76.1	10	5	3	5	5	5	3	5	2,700	
12	29	696.0	445.7	64.0	A	5	52.0	7.3	2.7	73.1	11	5	3	5	5	5	3	5	3,400	
13	29	777.0	502.9	64.7	A	5	66.0	8.4	1.6	75.9	10	5	4	5	5	5	3	5	2,700	
14	29	822.0	522.3	63.5	A	5	60.0	8.8	2.4	74.4	9	5	3	5	5	5	3	5	2,900	
15	28	741.0	478.2	64.5	A	4	56.0	7.8	3.0	73.2	6	4	4	4	4	5	3	5	2,300	
平均	29	768.3	506.3	65.9	A	4.9	72.9	8.5	2.1	76.3	10.1	4.9	3.3	4.9	4.9	4.9	5.0	3.0	5.0	3,312.7

注：JA熊本経済連の和牛の定義に合致する15頭の数値である。

資料：JA全農ミートフーズ株式会社九州支社提供資料より作成。



## 8. 和王を巡る今後の課題

### (1) 経営を悪化させる3つの要因

#### ① 枝肉価格の低下

枝肉価格の最近の推移を示した図8をみると平成18年の2,052円をピークに低下傾向にあり、平成24年には1,641円になっている。その差額は411円で、枝肉重量を470kgと仮定すると1頭当たり19.3万円の格差になる。

販売価格の低下による経営の悪化を改善するには、上記のようにBMSナンバーを引き上げることが重要である。

#### ② 配合飼料の農家購入価格の上昇

配合飼料価格は図9のように上昇している。トン当たり価格は平成15年の48,351円から平成24年には62,226円に上昇しており、13,875円の格差が発生している。1頭当たり4.5トンを与与するものと仮定すると約6.2万円の上昇になる。

#### ③ 肥育素牛価格の上昇

肥育素牛価格は図10のように上昇している。1頭当たり価格は平成21年の360,822円から平成24年には419,306円に上昇しており、約5.8万円の上昇になる。

### (2) 3つの取り組み課題と7つの対策

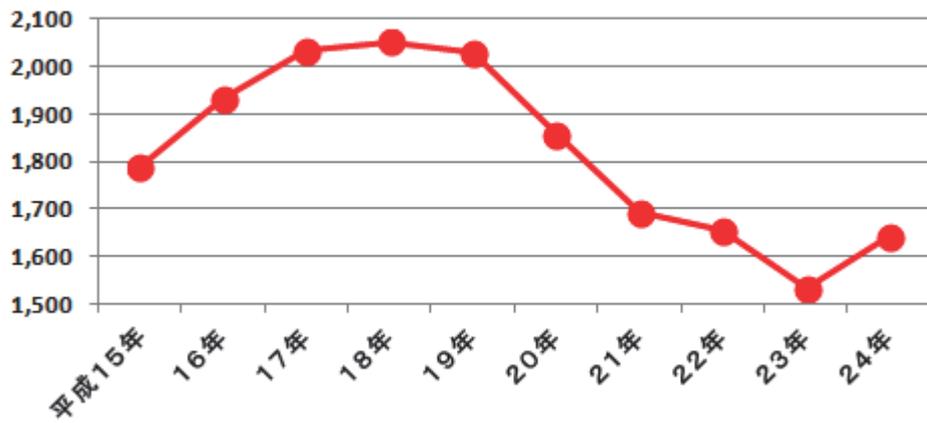
今後取り組むべき課題は、①枝肉販売価格をどのように上げるか、②生産コストを如何に下げるか、③飼養戸数と頭数の減少を食い止めるための生産基盤を如何に強化するかである。

上記の3つの課題を達成するには、熊本県産牛肉ブランドを市場や消費者に浸透させることが重要であり、そのためには①市場マーケティングの実施、②効率的プロモーションの展開、③和王に絞った販売戦略の展開、④重点市場での戦略展開、⑤輸出事業の強化、⑥配合飼料物流体制の整備、⑦低コスト飼料の普及・拡大が、対策として重要である。

### (3) 和王を熊本県のリーダーブランドに

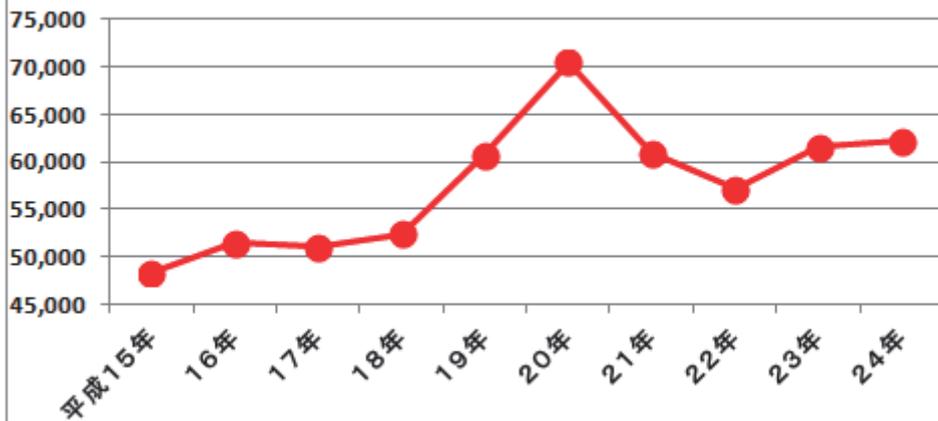
熊本県最上級ブランドである和王を重点的に、市場・消費者へPRし、市場価値を高め、褐毛和種や交雑種を含めた熊本産牛のリーダーブランドに育てることが最も重要である。

(円/kg) 図8 枝肉価格の推移(全国中央食肉市場)



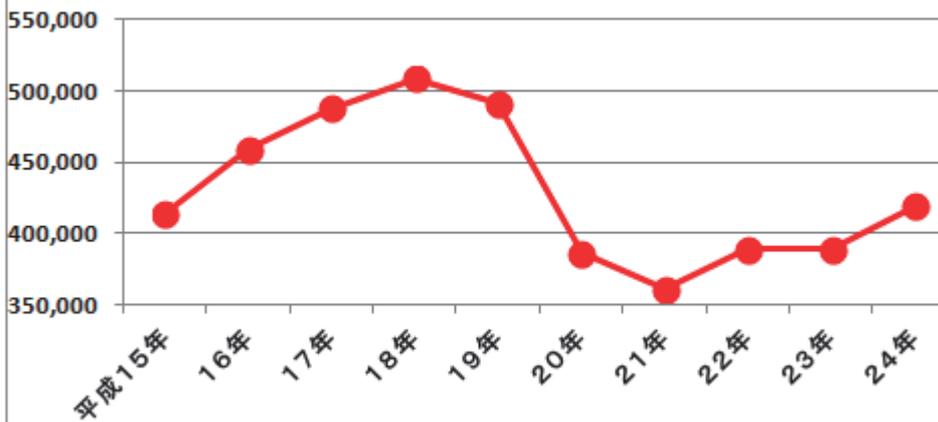
資料:農林水産省資料

(円/t) 図9 配合飼料の農家購入価格



資料:農林水産省資料

(円/頭) 図10 指定市場における肥育素牛価格の推移



資料:農林水産省資料